野山の花 ― 身近な山野草の食効・薬効 ―

城西大学薬学部　白瀧　義明（*SHIRATAKI Yoshiaki*）

ホオノキ *Magnolia obovata* Thunb. (*M. hypoleuca* Siebold et Zucc.)（モクレン科：Magnoliaceae）

連絡先：城西大学客員教授
shiratak@josai.ac.jp

山々が萌黄色に染まる 5 月，大木の大きな葉の隙間から，白い大きな花が顔を出しているのを見かけます。ホオノキ（朴の木）は北海道～九州の丘陵, 山地に生える日本固有の落葉高木で高さ 30m にもなります。樹皮は灰白色，きめが細かく，裂け目を生じません。葉は大きくて長さ 20 ～ 40cm，トチノキに並ぶ大きさです。葉柄は 3 ～ 4cm と短く，葉の形は倒卵状楕円形，やや白っぽい明るい緑で裏面には軟毛が散生し白い粉を吹いたようにみえます。葉の展開後，枝先に直径約 15cm の大きな花を開きます。ホオノキは多くの花びらが螺旋（らせん）状に

写真 1　ホオノキ（花）

写真 2　ホオノキ遠景（花）

写真 3　ホオノキ（果実）

写真 4　コブシ（花）

写真 5　ハクモクレン（花）

写真 6　タイサンボク（花）

配列し，がく片と花弁の区別が明瞭でないなど，モクレン科植物の比較的原始的な特徴を受け継いでいます。雄しべは長さ 2cm，花糸は赤色，葯は黄白色で，花の寿命は短く，雄しべは開花するとすぐに落ちてしまいます。果実は袋果が集まった集合果で，長さ 10 ～ 15cm の長楕円形，9 ～ 11 月に熟します。袋果は赤褐色で中に長さ 1cm ほどの種子が 2 個入っていて，種皮の外層は赤色，中層は肉質，長い糸状の珠柄（しゅへい）でぶら下がっています。冬芽は 2 個の托葉と葉柄が合着したキャップ状の芽鱗に包まれ，頂芽は大きくて長さ 3 ～ 5cm あり，葉痕は扁円形または心形で維管束痕は多数あります。ホオノキの下では，他の植物はあまり生えません。

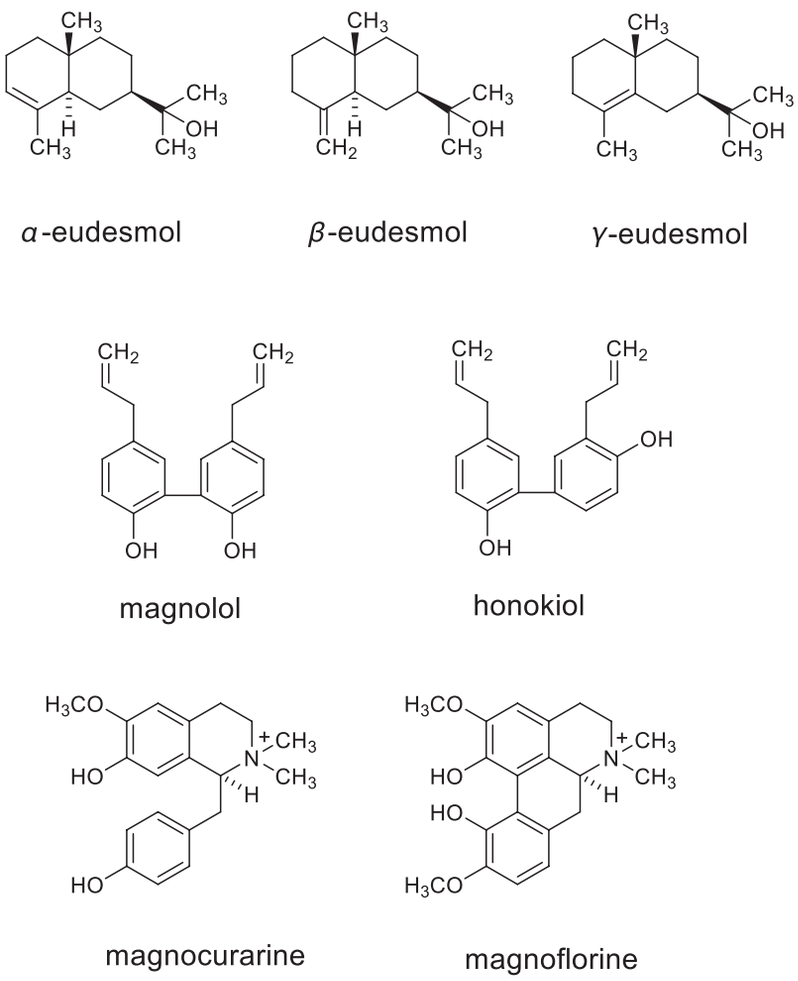

図 1　成分の構造式

写真７　ホオノキ（冬芽）

写真８　ホオバミソ（朴葉味噌）

写真９　生薬：コウボク（厚朴）

これは，落葉や根などから分泌される他感物質により種子発芽や，発芽した植物の生育が強く抑制されるためでアレロパシー（他感作用）として知られています。ホオノキの花は雌しべの成熟と，雄しべの成熟の時期をずらすことで，１つの花では自家受粉しにくいようになっています。

ホオノキや中国に産する厚朴（こうぼく） *M. offcinalis* Rehder et Wilson，凹葉（おうよう）厚朴 *M. offcinalis* Rehder et Wilson var. *biloba* Rehder et Wilson の樹皮は生薬名をコウボク（厚朴 Magnoliae Cortex）といい（特にホオノキの樹皮を和厚朴ということもある），漢方では，胃腸系の代謝を改善し，気を下げ，咳や痰を治す薬能があるとして，健胃消化，瀉下，鎮咳去痰を目的として半夏厚朴湯（はんげこうぼくとう），柴朴湯（さいぼくとう），小承気湯（しょうじょうきとう），神秘湯（しんぴとう），平胃散（へいいさん）などに配剤され，芳香健胃，収斂，利尿，去痰などの目的で各種家庭薬にも用いられます。成分としては精油の α-eudesmol, β-eudesmol, γ-eudesmol，ネオリグナンの magnolol, honokiol，アルカロイドの magnocurarine, magnoflorine などが報告され，β-eudesmol の中枢抑制作用，honokiol の抗不安作用，magnocurarine の抗痙攣作用をはじめ，各種成分や抽出エキスの抗潰瘍，抗炎症，抗菌，抗酸化作用などの研究報告があります。

40cm にもなる大きな葉は「ホオバ」とよばれ，若葉はカシワの葉のように食べ物を包むのに使われてきました。葉には芳香があり，殺菌作用もあるため朴葉寿司，朴葉餅などに使われ，また，落ち葉となった後も，比較的火に強いため味噌や他の食材をのせて焼く朴葉味噌，朴葉焼きなどの材料としても利用されます。アイヌ民族はホオノキの種子を煎じ茶のように飲用したそうです。モクレン *Magnolia* 属の樹木には，他にコブシ *M. kobus*，ハクモクレン *M. denudata*，タイサンボク *M. grandidflora* などがあります。